

被爆・終戦80年を迎えて ～「平和の使徒」としての固有の使命のために～ 広島教区 アレキシオ白浜満司教



福岡教会での司牧訪問（6月8日聖霊降臨の祭日）
ミサの中で信者に堅信を授ける白浜司教

はじめに
2025年（通常聖年）の復活祭の翌日・4月21日の朝、前教皇フランシスコが帰天されました。在任中、2019年11月24日に、被爆地の長崎と広島を訪問され、世界の平和、とくに核兵器廃絶を強く訴えられた教皇でしたので、わたしたちは、その逝去に深い悲しみを覚えました。その後、5月8日の教皇選挙（コンクラーベ）で選出されたレオ十四世も、

前教皇フランシスコと同じように、世界の平和を切望されています。選出直後の最初の挨拶の際に、新教皇レオ十四世が発せられたメッセージを心に刻みたいと思います。

新教皇の最初のメッセージ
「あなたがたに平和があるように。」
愛する兄弟姉妹の皆さん。これが、神の民のためにいのちを与えた、よき牧者である、復活したキリストの最初の挨拶です。わたしもこう望みます。この平和の挨拶が皆さんの心に入りますように。皆さんの家庭に、どこにいたとしてもすべての人に、すべての民族に、すべての地に届きますように。あなたがたに平和があるように。

これが復活したキリストの平和です。謙遜で、忍耐強い、武器のない平和、武器を取り除く平和です。この平和は神から来るものです。神はわたしたち皆を無条件で愛してくださいませ。……悪が打ち勝つことは、

カトリック

広島教区報

No. 141

カトリック
広島司教区発行責任者
広報担当
瀧井英昭神父「点訳版」あります。
お問い合わせください。広島市中区幟町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう
教区の動き・2025平和行事
幟町書院 オリーブの樹
J-CARM広島便り・うちのイチ押し
地区便り・海峡からの風・青少年・ひと粒

1 〳 3 面
4 〳 5 面
6 〳 7 面
8 〳 9 面
10 〳 12 面



「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね」という意味。

最近、鳥取教会で新しく

洗礼を受けた方がいて、自

分の受洗のときを思い出し

ました。私自身が洗礼を受

けた日、静かに始まった信

仰の旅が今も豊かに続いて

いることに、改めて感謝の

思いが湧いてきました。

私は、教会学校で子ども

たちと過ごす奉仕を与えら

れています。小さな祈りの

声、聖書の言葉に真剣に耳

を傾けるまなざし、そのど

れもが神様の語りかけのよ

うに感じられます。そして

何よりうれしいのは、鳥取

教会の皆さんが、子どもた

ちを温かく見守り、支えて

くださっていることです。

ときには一緒に遊び、とき

には静かに祈ってください

その姿に教会全体がひとつ

の「家族」であることを実
感しています。

また、鳥取教会は外国人

信者の方も多く、復活祭や

クリスマスパーティーで

は、多国籍な料理が並び、

子どもも大人も一緒になっ

て賑やかに喜びを分かち合

います。そのような「多様

性に満ちたあたたかさ」

も、私たちの教会の大きな

恵みだと感じています。

これからも鳥取教会で、

子どもたちと共に信仰を育

みながら、支えあう、祈り

あう歩みを続けていきたい

です。この場所と与えられ

ているつながりと恵みを、

大切にしながら。

（鳥取教会 山根心）

もはやありません。わたしたちは皆、神の手のうちにあります。それゆえ、恐れることなく、神と、また互いに手をつないで、前に進んで行きましょう。わたしたちはキリストの弟子です。キリストはわたしたちに先立って進んでくださいます」(「新教皇レオ十四世の最初の祝福」カトリック中央協議会のホームページより)。

被爆・終戦80年を迎える前に、全世界のカトリック教会の牧者としてレオ十四世をいただいたわたしたちは、新教皇の導きのもとに、福音宣教に向けての新たな歩みをスタートし、広島教区として「平和の使徒となる」ための祈りと活動に、さらに力を入れて行きたいと思っています。



被爆・終戦80年にあたってすでに案内がなされている通り、広島教区においては、今年は「原爆投下80年平和への希望をあらたにく核廃絶をわたしたちはあ

きらめない」というテーマで、平和行事が行われます。平和行事実行委員会の委員、種々の形で協力してくださる方々、参加してくださる皆さんに、心から感謝したいと思います。

今年は、8月5日の午後一時から、世界平和記念聖堂に隣接するエリザベト音楽大学のセシリアホールを会場として、被爆者団体(日本被団協、広島被爆者7団体)と日米韓の司教有志との平和集会が予定されています。被爆80年にあたって、高齢化し減少していく被爆者の思いを引き継ぎ、「核兵器廃絶のための協働をめざして」というテーマで、日米韓のカトリック教会がどのように「ともに歩む(協働する)」ことができるのかについて、意見交換をする予定です。通訳付きで、どなたでも自由に参加できますので、多くの方々にお越しいただければ幸いです。

【司教団のメッセージ】

日本の司教団は、戦後50年、60年、70年にあたつ

て、それぞれ平和メッセージを発信してきました。そして終戦80年にあたって、昨今の戦いの火種が絶えない世界の情勢を憂慮し、今年六月に開催した定例司教総会において、「平和を紡ぐ旅―希望を携えて―」というタイトルのメッセージを採択しました。さらに、日本の司教団は、国際法となった「核兵器禁止条約」(TPNW)への、一日も早い署名批准を日本政府に働きかけるため、「日本カトリック司教団・核兵器廃絶宣言2025」を採択しました。これら二つのメッセージは、カトリック中央協議会のホームページに掲載されています。これらの文書を読み、学びながら、わたしたちは被爆地の教区として、「平和の使徒となる」という固有の召命を生きるための祈りと活動を、これからも紡いで行く決意を新たにしたいと思います。



広島教区のチャレンジ

【平和行事】

日本のカトリック教会では、毎年8月6日(広島・原爆の日)から15日(終戦の日)までを「平和旬間」と定めて、日本の各教区において、平和の実現のための祈りや活動をおこなっています。世界で最初の被爆地・広島に司教座聖堂(カテドラル)をもつ広島教区では、毎年、8月5日と6日(広島・原爆の日)、9日(長崎・原爆の日)に合わせて、平和祈願や原爆犠牲者のためのミサと種々の行事に力を注いでいます。

また、一年の他の時期に、平和のための祈りと活動を広げて行くことも必要です。そのために、広島教区の各地区では、教皇ヨハネ・パウロ二世(1981年2月)、あるいは教皇フランシスコ(2019年11月)の来広を記念して、いづれかの月に、平和について考え学び祈る機会を設けています。ただ、これらの行事を企画し実施してくださる信徒の方々の高齢化が進み、その担い手を育て

ていくことが、今後の大きな課題の一つとなつていきます。より多くの、とくに若い世代の方々が「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」(マタイ5・9)という、イエス様の呼びかけに答えてくださるよう期待したいと思います。



【核なき世界基金】

2019年11月24日に、教皇フランシスコは、日本の二つの被爆地を訪問するという非常に過密なスケジュールを実行されました。そして、「原子力の競争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反します」(広島)……「武器は膨大な出費を要し、連帯を推し進める企画や有益な作業計画を滞らせて」(長崎)しまいますと訴えました。また、「防衛費の一部から基金を創設し、貧しい人々の援助に充てる」(長崎)ように呼びかけました。この呼

カトリック教会内外の支援者のご協力のもとに、この5年間に平均して毎年約四〇〇万円のご寄付（累計で約三六〇万円）をいただき、毎年一〇〇万円の積み立てを継続し、3つの目的にかなう活動のために毎年約三〇〇万円の支援を実

基金の今後のことについて各方面にご意見を伺ったところ、平和活動を行っている諸団体から、基金の継続を希望する声が複数上げられました。また、現在、「核兵器禁止条約」の締約国の間で、国際信託基金の創設の検討がなされていますので、積立金の今後の適切な使途を見極めるためにも、さらに被爆80年まで5年間の募金活動の延長を、日本カトリック司教協議会の今年六月の常任司教委員の申請し、延長が許可さ



ていた2023年8月、アメリカ合衆国・ニューメキシコ州の（管轄区域内に、広島と長崎に投下された原爆が開発・製造されたロスアラモス国立研究所がある）サンタフェ大司教区のジョン・ウエスター大司教様、またワシントン州の（管轄区域内に、アメリカ合衆国内で最も多く核兵器が配備されている）シアトル大司教区のポール・エティエン大司教様をはじめ、合計9名の平和巡礼団が来日され、8月5日～8月6日に広島で、8月7日～9日に長崎で、それぞれ平和行事に参加されて、原爆・戦争犠牲者のため、また世界平和のため、ともに

ジョン・ウエスター大司教様とポール・エティエン大司教様は、「核兵器のない世界」の実現を目指して、被爆地である広島・長崎のカトリック教会と連携

れ、日米の（上述の）四教区の司教レベルで、「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」をまず樹立しました。そして、司祭、修道者、信徒の皆さんにも詳しい説明をして理解を求め、このパートナーシップへの参加をお願いして行くことにしました。その後、一年間かけて準備が進められ暫定的な規約も作成されて、昨年2024年8月には、このパートナーシップへの参加・賛同の呼びかけを、ホームページ（<https://pwnw.org>）上で開始しました。このパートナーシップは、2019年11月24日に広島で、教皇フランシスコが核兵器廃絶に向かう心構えとして強調された「思い起し、ともに歩み、守る」という三つの倫

被爆80年にあたる今年8月5日の午後には、創立母体の4教区の司教をはじめ、すでにパートナーシップに賛同団体として加盟をした教区の司教たちや核兵器廃絶を訴える日米韓の枢機卿、大司教、司教有志が広島に集い、被爆者団体の方々との平和集会を開催する予定です。

戦争や紛争が続く、核兵器使用のリスクが高まりつつある現在、被爆地の教区として、「平和の使徒となるう」という固有の召命に応えて行くために、他の宗教団体や民間団体とも対話し協働しながら、世界の平和を祈り、とくに核兵器廃絶を叫ぶ声を強めて行きたいと思います。



教区の動き

2025年度（第一回）

広島司教区宣教司牧評議会開催

去る6月14日（土）、2025年度第一回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣司評）がリモート会議形式と併用で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の24人が出席した。会場の広島カトリック会館多目的ホールには出席評議員の過半数の16人が集い、その他8人はリモート接続して予定通り会議を開始した。

教区宣司評は、大西神父の聖書朗読、白浜司教の挨拶と祈りに続いて評議事項から始まった。

評議事項では、次の各評議内容の説明と評議員による意見交換が行われた。

まず百年史編纂委員会から教区百年史の発刊に向けて最終段階に入っている状況の報告があった。現在、

サンパウロと出版に向けて進めており、今秋には出来る見込みとのこと。出版後は各小教区・修道会・カトリック学校関係等に献本されるほか、サンパウロから購入することができるとのこと。詳しくは、別途、案内が配信される予定。

続いて2月に行われた第2回「宣教ひろば」後に各協働体で変化があったことについての分かち合いが行われた。当日の宇部・小野田協働体の基調講演を聞いて自分たちがこれからどう歩んでいけばよいかを考える良い機会になったとの意見が複数あった。

また次回開催予定の第3回「宣教ひろば（2026年2月23日）」のテーマや内容について意見収集が行

われた。テーマについては、世界シノドスの最終報告（邦訳）の内容も視野に入れて9月までに決定する予定とのこと。

次に「臨時の聖体奉仕者養成講座」について意見収集が行われた。意見収集の趣旨は、小教区で外国籍の信徒の割合が多くなっている現状において、聖体奉仕者養成のための外国語版テキストの必要性や、講座が行われる場所に外国籍の信

徒が集う場合の移動距離などの課題を検討するため。今後、課題改善のための原案を作成し、今回の教区宣司評に提示する方向とのこと。

次に「教会役員向けハンドブックの作成および研修会の企画」についての提案が平和の使徒推進本部の傘下である「シノドス対応調整形チーム」から示された。ハンドブック作成の目的は、普段知ることの少ない広島教区全体、日本や世界のカトリック教会の動向に関する事項をまとめたものを作成し、各教会役員（信徒リーダー）の方に理解を深めてもらうため。また将来、ハンドブックを用いた研修会などを企画する

予定とのこと。提案の後、意見交換を行い2025年度中に作成することになった。更にハンドブックの名称は「役員向け」とせず誰でも手に取って読んでもらえるようなものを検討する。

次に「2025聖年の閉幕ミサ」について場所と時間に関する意見収集が行われた。なお日にちの12月28日（日）はバチカンの指定。意見交換の結果、場所は開幕ミサと同様のカテドラル、時間は午後になった。

次に青年活動企画室から「サビエル・フェスタ（通称・サビフェス）」の説明と報告があった。目的と意図は既に教区顧問会で承認されているとのこと。信仰の始まりの多くは誰かとのふとした出会いにあり、サビフェスはその誰かと教会の「橋をかける場」になることを願っているとのこと。

評議事項の最後は、「世界シノドスの取りまとめ計画」について、最終文書の公式邦訳が発出され次第、

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

その取りまとめをシノドス
対応調整チームで行うこと
を確認した。
教区宣司評の後半は報告
事項が行われた。
まず各地区・教区修道女
連盟から報告があった。教
区修道女連盟からは、研修
会を計画中であること、
「10週間の祈りの旅」の同伴
者としての奉仕をシスター
たちが各地で喜びをもって
協力していることが報告さ
れた。

続いて平和の使徒推進本
部から「2025聖年」企
画の助成金申請および助成
状況についての報告、更に
「正義と平和推進デスク」
および「ラウダート・シデ
スク」からの報告に続い
た。正義と平和関連の詳細
は教区ホームページおよ
び
社会司牧通
信で確認して
欲しいものと。
特に署名
活動「『外国
人住民基本
法』と『人種
差別撤廃法』
『難民保護
法』の制定を

聖書通読写経キャンペーン

完了者紹介（敬称略）

◆聖書通読を完了された方◆

No.023 野崎 綾 幟町教会

No.024 上野敦子 岡山教会

◆新約聖書写経を完了された◆

No.037 下崎孝子 宇部教会

聖書の通読、写経キャンペーン
は継続して行っております。ぜ
ひ個人で、グループで、家族
で、取り組んでみてください。



求める国会請願書」に理解
と協力をお願いしたい。
(2026年1月〆切)
報告事項の最後は
「2025平和行事」に関
する案内があった。
以上のことが話し合わ
れ、祈りと祝福のうちに三
時間の教区宣司評を閉会し
た。
なお、次回(2025年
度第二回)教区宣司評は、
12月13日に開催予定。
本記事に関するご質問な
どは平和の使徒推進本部ま
で。
(平和の使徒推進本部)

2025 平和行事

原爆投下80年平和への希望をあらたに
～核廃絶をわたしたちはあきらめない～

●8月5日(火) 13:00～

被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会
「被爆80年 核廃絶のための協働をめざして」
平和祈願ミサ
平和のための祈りの集い

●8月6日(水) 8:00～

原爆とすべての戦争犠牲者のためのミサ
カトリックユースプログラム
日米カトリック大学 学術シンポジウム
8・6キリスト者平和の祈り
原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート

●8月9日(土) 11:00～

長崎・原爆犠牲者のためのミサ
カトリック広島司教区 平和行事実行委員会
会場：世界平和記念聖堂・エリザベト音楽大学セシリアホール他

広島教区 2025 平和行事プログラム

期 日：2025 年 8 月 5 日(火) 6 日(水) 9 日(土)

場 所：エリザベト音楽大学セシリアホール 世界平和記念聖堂 他

テーマ：「原爆投下80年 平和への希望をあらたに～核廃絶をわたしたちはあきらめない～」

8月5日(火)

①13:00～15:30

*ライブ配信有 エリザベト音楽大学セシリアホール

被爆者団体と日米韓有志司教の平和集会 「被爆80年 核兵器廃絶のための協働をめざして」

- ・初めの挨拶
- ・日本被団協のノーベル平和賞受賞の祝賀式
- ・被爆者と司教たちからの提言
- ・共同声明の発信
- ・記者会見

②16:00～17:30 平和祈願ミサ *ライブ配信有 *手話通訳付き

世界平和記念聖堂

被爆・終戦80年にあたり、駐日教皇大使、米国・韓国からも来られた枢機卿・司教様をはじめ、全国から集う人々とともに、戦いの道から遠ざかり、対話を通して国際的な協調の道を選択し、恒久的な世界の平和を築きあげていく恵みを神に願ひ求めましょう。とくに、現在、世界各地で起っている戦争や紛争の早期終結のために祈りましょう。

③18:30～19:00 平和のための祈りの集い (日本聖公会との共催)

原爆供養塔前 (平和記念公園内)

原爆供養塔の前で、戦争・原爆の犠牲者の永遠の安息、および今もなお戦争・紛争などで苦しんでいる人たちのために祈り、日常生活の中で、非暴力(対話)による平和の構築を大切にすることを新たにします。

◆ノートルダム清心中・高等学校ボランティアによる聖堂案内

集合場所 大聖堂入口

8/5(火) ①11:30～12:00 ②15:30～16:00

8/6(水) ③9:15～9:45

8月6日(水)

①6:15～7:15 戦災供養会主催 宗教者平和の祈り

原爆供養塔前 (平和記念公園内)

原爆犠牲者の安息を世界の平和のため、仏教・神道・キリスト教の宗教者がともに集い祈りをささげます。

②8:00～9:15 原爆・すべての戦争犠牲者のためのミサ *ライブ配信有 *手話通訳付き

世界平和記念聖堂

被爆・終戦80年にあたり、原爆や戦争で犠牲になられた方々の永遠の安息と、世界の平和を祈りましょう。

③10:00～12:00 【カトリックユースプログラム】*要申込：詳細は2025平和行事HPに掲載

マリアホール

「Catholic Voices for Peace ～世代をこえて、語り合う～」

松浦信郎司教 (名古屋教区)

④13:00～15:45 日米カトリック大学・学術シンポジウム

エリザベト音楽大学セシリアホール

⑤15:00～16:30 8・6キリスト者平和の祈り

日本基督教団 広島流川教会

*被爆証言：小倉桂子さん (日本基督教団 広島牛田教会 会員 2023 G7広島サミットにて被爆証言)

⑥18:00～ 原爆犠牲者のためのスピリチュアルコンサート

世界平和記念聖堂

REQUIEM(フォーレ作曲)

*エリザベト音楽大学同窓会

8月9日(土)

「ながさき平和の日」

①11:00～12:00 長崎・原爆犠牲者のためのミサ *手話通訳付き

(世界平和記念聖堂・地下聖堂)

2025平和行事のポスターとプログラムの詳細

8月5日に行なわれる行事の様子はYouTubeでご覧いただけます。
詳しくは広島司教区ホームページ <https://hiroshima.catholic.jp/>
の平和行事の案内をご覧ください。

どうなった？
何がある？
ちょっとキになる
オリーブの樹へ
GO！



全部いいですね～
おサイフわすれました～



おのりしています



びっくりです！



主任司祭として初めての堅信式の前に
証明書を準備！トキトキの全神父さま



こんにちは、シスター！
と Sr. 川上



元トラビスト修道士の星野神父さま
ハチに気をつけながら実を集めていたとか！



高知・鹿児島のを発見！
オドロキ喜ぶ久保神父さま



どのお顔もきれいですね
パウァン神父さまは思案中



おすすめです
フランス産のオリーブオイル？
食べてみようかな？と三宅神父さま



ももやまオリーブの樹

どうやらサンパウロが来てくれるらしい?!との噂が広がっても、何の進展もないままだった3月8日、「10日から工事が始まります」と突然の一報が入りました。まだオープン日も決まらないまま工事が始まりあれやこれや、あたふたとしたまま、今日にいたっています。

サンパウロはシステムとアイテム、教区は経費とスタッフをとのことでしたが、財政上、専従スタッフを望むべくもなく、青年活動企画室と教区本部事務局の職員がそれぞれの本業に加えて、その任にあたることになりました。慣れない業務と予想以上の作業量に振り回されてしまい、遅々として進まない本業に税理士さんも頭を抱え、神父様からのメールもスルー…。それでもみなさまからの「ここがあって嬉しい。ありがとう。」の言葉を支えに何とか頑張っています。また、日曜担当のボランティアグループにも支えられています。

最近では、近くの大学生がぶらっと寄って立ち読みしたり、修道院製のお菓子を求めて幼稚



ここがGOOD

Point 4

聖堂オリジナルグッズ

国の重要文化財でもある
世界平和記念聖堂オリジナルグッズは
お土産にもってこい！
すべて聖堂保存のための献金となります。
いつもあたたかいご協力
ありがとうございます。

Point 3

修道院のお菓子

全国津々浦々の修道院からとどく
素朴で優しい味のお菓子。
外国の修道院からの珍しいオイルやパテ。
中国地方初 お目見えが盛りだくさん！
1つ1つ手作りなので入荷がまちまち。
見つけた時が
「その時！」です。



Point 1

書籍

聖書はもちろん、
絵本や話題の1冊。
「毎日のミサ」「家庭の友」など
今ほしい！に出会える
ラインナップです。

Point 2

聖品・聖具

ロザリオやメダイ、御絵をはじめ、
お香やろうソク、聖句をあしらった
かわいい雑貨もめじろおし。
好き！
が見つかる楽しさです。



Q & A

- Q お休みは？
A 水曜日、木曜日と
祝日です。
Q オープン時間は？
A 10時から16時です。
(日曜日は9時半の
ミサ後～15時です)



最新のお知らせは
↓↓↓こちらから



@OLIVETREE_HIROSHIMA



園児さんのため？めいっ子ちゃんのため？
えほんはいいよねーと大西神父さま



著者登場？
サインください！！
片柳神父さま



レジ打ちが楽しくなってきた！
アメリカ出発前の伊藤神父さま



カマルドリ？キャンディー？
カンもかわいい！
Sr. 高橋はグミも好き！

まよっちゃう～



「ミッション」を植える司教様

園帰りの親子さんや地域の方、
ランチ帰りの会社員が寄ってく
ださるようになってきました。
少しは親しみを感じてもらえて
いるのか、「入っていい場所と
思わなかった。」と言われる方
々が聖堂に入ってみたり、お庭
で休んだりしている姿を見ると
嬉しくなります。

オープン記念に司教様が植え
られたオリーブの品種は、奇し
くも「ミッション」。宣教の場
として、どんな人にも大切な場
所であってほしいと言われた司
教様の思いを忘れないようにし
たいと思います。

法人会計 大本聖美

○ J-CaRM ユニティー 岡山・鳥取地区における 外国人移住者への宣教的アプローチ 津山教会 ジョン・ボルドン神父

○ 私は宣教司祭として岡山鳥取地区に派遣されたことを、大変光栄に思います。神への愛と感謝のうちに、私はイエス・キリストの希望と喜びの物語を伝える使命を受けています。宣教師としてイエス・キリストに従い、神が宣教の目的を実現するために私を日本に遣わされたと感じています。イエスの喜びの物語を証しし、伝えることを使命としています。

○ 兄弟姉妹のみなさん、私は宣教師として、またキリストに従う者として、どのように行動し、どのような人間へと成長していくべきかを自らに問いかけなければなりません。私は愛に生きるように求められているからです。愛を生きる牧者とは「近づきやすく、目に見える存在」であることです。これは私の司牧活動において、最も重要なことの一つです。

○ 司祭として大切なのは謙虚さです。謙虚な心は、神との深い出会いへと私を導き、イエスの深い愛で満たしてくれます。この世における名誉や権力、称号などは私の手柄ではなく、すべて神からものです。私には誇るべきものではありませんが、神の手によって造られ、聖なる者、愛にあふれたものとして生きていくように創造されています。

○ 聖パウロはフィリピの信徒への手紙で、イエスの謙遜さを「ケノーシス（自己を無にすること）」として語ります。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」（フィリピ2・6-8）。この一節は、謙虚さが神への従順の証であることを教えてくれます。イエスの姿は、私が模範とすべきものです。

○ 宣教は、まず「聞くこと」から始まります。聞くことは、非常に重要で最良の言語である「心の言葉」を使います。私は人々に奉仕するために派遣され、その使命は常に愛の精神に根ざしています。だからこそ宣教は愛であり「すべての人に福音を伝えるために喜んで尽くしあう」という愛の精神を生きています。

○ これからも皆さまとともに、この広島教区において神の愛を宣べ伝えることができますよう、お祈りください。宣教の使命を胸に、喜びのうちに奉仕していきます。



ジョン神父が主任司祭として赴任している津山教会

2025年第43回平和祈願ミサ

～永井隆博士を偲んで～

今年は戦後80年にあたります。

博士の「如己愛人」の精神に学び、

ともに平和のために祈りましょう。

日 時:2025年11月24 日(月・振休) 10:00～13:00

場 所:島根県雲南市三刀屋町永井隆記念館

主 催:カトリック広島教区

伯雲協働体(カトリック米子・松江・出雲教会)

プログラム

10:00 開会・来賓の挨拶

10:15 平和祈願ミサ

12:00 講演 生い立ちの家

講 師 ボランティアガイド 須山弘二氏

テーマ『永井隆さんとふるさと飯石村』

13:00 閉会

問い合わせ先:カトリック米子教会

TEL 0859-22-6340 FAX 0859-35-9870



(左) 教皇レオ14世 (右) 住田神父 (イエズス会)

レオ十四世 第267代教皇に選出



5月8日、ロバート・フランシス・プレヴォスト枢機卿が、第267代目の教皇に選出され、レオ十四世と名乗りました。

レオ十四世は、聖アウグスチノ修道会の修道者で、米国出身者としては、初めての教皇となります。

また、アウグスチノ修道会の総長やペルーで教区司



列福ミサ 退堂の様子

教として務めておられたこともあり、教皇に選出される直前までバチカンの司教省長官を務められていました。

教皇レオ十四世は、かつて、2018年11月24日に長崎で行われた、ペトロ岐部と187殉教者の列福ミサに参加するために聖アウグスチノ修道会の総長として参加されていました。

第267代教皇レオ十四世 (ロバート・フランシス・プレヴォスト)

1955年9月14日、アメリカ合衆シカゴ生まれ69歳。聖アウグスチノ修道会出身。前教皇庁司教省長官、ペルー チクラヨ名誉大司教。



Vol.1 祇園教会

大地の恵み、労働の実り

うちの教会学校では、聖堂横の六畳ほどの畑で麦を育てています。

秋に種をまき、芽が7cmほど伸びた冬に麦踏みを行います。子どもたちに元気に踏まれて強くなつた麦は、すくすくと育ち、春には黄金色の穂を実らせ、いよいよ麦刈りの時期を迎えます。キッチンバサミを使うと、簡単に刈り取ることが出来ます。



麦の刈り入れ



脱穀

刈り取った麦は束ねて干し、乾燥させた後、夏にむしろの上でビール瓶を使って穂をトントンとたたき実を落とします。唐箕^{とうみ}にかけて風の力で殻と実に分けたら、実は、別の日に、昔ながらの石臼をぐるぐる回して粉ひきをし、さらさらの全粒粉の小麦粉にします。こうしてできた小麦粉から2つのものを作ります。

ひとつはホスチアです。キリストの聖体の前日、生地を作って絞り出し、クッキングシートの上から指で押し丸く形作ります。シートごと鉄板で挟



完成したホスチア

んで、160℃のオーブンで15分焼き、翌日のミサで聖体としていただきます。

もうひとつは、やさしい甘さのバナナケーキです。教会でお分けし、「夜回りの会」への募金を呼びかけ、ホームレスの方々への支援に役立てていただいています。

天候に左右されたり、スズメに食べられたり、暑さや蚊との戦いがあつたりと、思うようにいかないことも多々ありますが、誰かのために役立つ喜びを味わい、神さまのお恵みを感じながら、2007年からずっと続けています。

祇園教会 藤本・望月

地区便り

山口島根地区

*細江教会 新発見



細江教会のステンドグラス

旧聖堂の解体時、ステンドグラスを再利用し新聖堂の正面に移築しましたが、実は新たな発見がありました。このガラス素材はダル・ド・ヴェール（フランス語）と呼ばれていて、厚さ25ミリくらいのガラスを砕いた特殊技法が駆使され、手間もかかるので、最高級の素材といわれており、かなりの価値があるそうです。日照時の光の変化で、通過する光の乱反射がとっても美しく、重量感があり、他に類を見ない存在感となっています。美しい光の壁となっていています。ある意味ではモザイク的な芸術作品とも言われているそうです。今まで埋もれていた光の表現が、本当にドラマ

チックに変わりました。終日、繊細な採光で聖堂の空間を優しく癒してくれます。

ぜひお越しください。隣接の信徒会館ラウンジにて、ひと時をお過ごしください。コーヒー一杯の自由献金を！
信徒代表 近藤

岡山鳥取地区

*教会菜園はじめます

津山教会聖堂の後ろには、長年利用されていない広い土地（駐車場なら10台分位）があります。

現在は実の生らないオリーブと枇杷の木等が植えられているだけで雑草に覆われています。最近その土地で菜園をしたいとベトナム共同体からの申し出がありました。神父様とも相談し、教会の菜園として皆で協力し合おうという事になりました。

まずは草取りと土おこしです。肥料

も野菜の種も苗も用意します。秋ごろには収穫できるのを楽しみにして行きたいと思っています。



津山教会の空き地（教会南側）

76 海峡からの風

下関労働教育センターだより

北九州で抱撲さんと共に生活している夜の炊き出しには、生活に困窮する人々が増えている。彼らとボランティアが食事を共にし、安心して語り合える場を作りたいという願いから、関門ネットの仲間とともに「つながりキッチン」が5月にスタートした。炊き出しの時には笑顔のないおじさんが笑いながら食事を楽しむ姿を見て、この活動の意味を実感した。

6月にローマで行われる会議のためにイタリアに渡った。イエズス会の難民移住ネットワークの各地域コーディネーターたちが集まり、世界全体のネットワークとしての計画を作るのが目的だ。私は4年間の担当者としての活動報告をしながら、自分の小さな働きにも世界に貢献する意味がある感謝の心で振り返ることができた。中でも印象的だったのは、コロンビア出身の女性コーディネーターの言葉

だった。植民地主義や暴力の歴史を背景に「私たちには声がある。私たちがいくら声を発しても聞いてくれないのはあなたたちではないか。私は背中にいるたくさんさんの仲間たちの声を伝えようと一生懸命言葉を学んで今は五ヶ国語を話している。声の

ない人に声を与えるって？違う。私たちは声を持っているんだ！」と語り、支援の在り方について深く考えさせられた。私は在日朝鮮人の存在を思い起こしながら、難民移住支援には植民地主義の問題に向き合う必要があると分かち合った。会議後に彼女のオフィスを訪ね、その存在がいかに大切だったことを伝えると、彼女も私の指摘に共感を示してくれた。今後こうした視点を忘れずに活動していきたいと思った。

滞在中、是非訪れたかったアッシジを訪れると、上智大学と一緒に神学を勉強したフランススコ会のホアイ神父さんがあたたかく迎えてくださった。フランススコ会員に交わり、聖フランシスコが、キリストの苦しみに近づきたいと、山に40日もって聖痕を受けたラヴェルナにも連れて行ってくれた。被造物を兄弟姉妹として賛美するその心とキリストの受難はどのように繋がるのかという疑問に、滞在中の外山神父が「三位一体のまなざしで見ると助言してくれた。この言葉がこれからの活動の指針となる言葉となった。」
(中井淳神父)

広島地区

*2025年度広島地区

召命祈りの集い

4月26日(土)、カトリック観音町教会で広島地区召命祈りの集いが実施されました。

白浜司教様と、8名の神父様方が参加してくださり、100名を超える信徒が集まりました。

全員で「栄えの神秘」をロザリオを繰りながら召命のために声をそろえて祈りました。その後、『私が考える召命とは』と題して、伊藤神父様の講話がありました。その中で、「召命とは司祭、修道者だけではなく、個人の信仰生活を他の人に証していくタレントを持つことも召命だ」ということを話されました。配布された『JP通信』を元



伊藤神父

に、正義と平和について伊藤神父様ご自身の信条を話されました。

最後に、白浜司教様司式による召命祈願ミサが執り行われました。

これからも、召命のために一緒に祈り続けていきたいと思います。 召命促進委員会

*聖母幼稚園の聖母祭



聖母祭の様子(世界平和記念聖堂)

5月17日(土) 18時半から、世界平和記念聖堂で、聖母幼稚園の聖母祭が行われました。卒園児(小1年生から高校生)、園児、保護者の方、約500名が参加し、全員がローソクを持ち荘厳な雰囲気の中、星野神父さまのお話を聞き、マリアさまの歌を歌いながら行列を行いました。

*ベトナム青年大会

広島教区ベトナム青年大会がノートルダム清心中・高等学校を会場として5月4日から5日の期間行われました。

テーマは【信愛と希望の巡礼者】参加者350名とシスター15名神父10名も参加されました。

食事は幟町教会でベトナムのお母さん達が毎食作って運搬してくださいました。運動会、ミサ、聖体行列、チームで夜の礼拝、教理の学びと分かち合い、充実した楽しい恵みあふれるひと時になりました。



ベトナム青年大会の様子(ノートルダム清心中高のホール)

*WWME JAPAN

50周年感謝の集い

三広島報告

みんなの心に火が灯り笑顔あふれた集いに感謝!

5月31日(土)

「WWME JAPAN 50周年感謝の集い」が、白浜満司教さまをお招きして、祇園教会で行われた。参加者は総勢46名。ウィークエンドを体験した司祭や夫婦が広島・福山・岡山から、遠くは奄美・関西・関東から参加、オンライン参加もあつた。

ME日本代表の神馬カッブルの歓迎の挨拶の後、午後1時から、白浜司教、深堀神父、荻神父の共同司式で感謝ミサ。2時半頃から感謝の集いが行われた。ME日本&広島の50年の歩みを振り返ると共に対話のプレゼンテーション、参加者全員のフリートークがあつた。その後飲食・歓談タイム・ダンスの出し物を経て、4時半頃メインバ



←ME参加者(祇園教会)

ナーを次回開催の四国に伝達し、最後はMEソングの「大波のように」を歌って、5時頃解散した。

ME関西代表

富山 信行・浩子



青少年の活動

いつも青年活動へのご理解とご協力を、心よりありがとうございます。

去る4月29日(月・祝)、山口教会を会場にお借りして、第2回「Xavier Fiesta(以下、サビフェス)」を開催いたしました。当日は晴天に恵まれ、オープン前から、教会へと続く坂道には長蛇



神の国を願って

職町教会

星野 倫淳 神父

広島・長崎に原爆が投下されて80年になります。ですから8月に行われる平和行事も、節目とあって、いつもの熱意をもって準備が行われております。尊敬する白浜司教様から今年度よりその実行委員会の担当司祭にいただいたのですが、司教様をはじめスタッフの皆様が非常に優秀でいらつしやり、着々と仕事をされているのに引き換え、私は全くの無能でほとんど何もわからず、会議の時にうなずいているだけ、そしてお祈りしているだけなので

の列。延べ千百名を超える方々にご来場いただくなど、今回も大盛況のうちに一日を終えることができました。

サビフェスが目指しているのは、「なんだか楽しそう」「行ってみよう」と思えるような教会への最初の一步、の場をつくることです。食やワークシヨップ、祈りの時間などを通して、福音に触れるきっかけをつくれたらと願っています。

す。主がこんな私をお救しくださいますように。

さて、今年の平和行事のテーマは「原爆投下80年平和への希望をあらたに」核廃絶をわたしたちはあきらめないです。私はこのテーマをはじめ聞いたとき、少々、後ろ向きという印象を受けました。核廃絶を求め続けてもう80年になる。しかしほとんど進展が見られない。しかも昨今の世界情勢を見るならば、核廃絶など到底夢物語に見える。わたしたちの叫びなど結局無駄なのではないか。そのような絶望的な気持ちに襲われ、半ばあきらめているなか、「それでもわたしたちは絶対あきらめない」と悲痛な思いで叫んでいる。そのように受け止められたのです。ですからちよつと好

きになれませんでした。

ですが、今は少し思い直しています。「あきらめない。」これはとても大切なこと。わたしたちはあきらめる必要などないのです。なぜなら神がいらつしやるからです。わたしたち人間を愛してやまない、全能で、憐れみ深い救い主である神が。そもそもわたしたちは何を求めているのでしょうか。核兵器廃絶。それはもちろんです。ですが核兵器さえなくなればいいというわけではありません。わたしたちはもつと偉大なことを求めているはず。なぜなら広島・長崎の叫びは戦争そのものの完全な拒否であり、人類の普遍的平和への願いなのです。すべての人が神に立ち返り、もはや武器を取ることも、憎みあうことも滅ぼしあうこともなく、ゆるしと愛によって互いに結ばれるように。そうしていつまでも続く平和が実現するように。本当はこれを、わたしたちは求めています。そしてイエスキリストを父なる神に是非に願うように

嬉しうお声を多くいただいています。

私たちにとっては当たり前のように行ってきたことでしたが、ふり返ってみると、それが信仰に根ざしたやさしさであり、誰でもあたたかく迎え入れる心が、教会の中で大切に育まれてきた証なのだと感じています。

そして、そうした姿を通して、若者たちもまた福音を語ることができるのだと、改めて気づかされ

と、じつは自分がわたしたちに教えられた祈りの中にあらかじめめてくださっているのです。「み国が来ますように。」

父なる神はわたしたちの祈りと努力を当てにしておられます。わたしたちがもつと熱心に、平和への願いをささげることが望んでいらつしやいます。あきらめないで叫び続けることを望んでいらつしやいます。わたしたちの祈りが父なる神の目に十分なものとなつたときに、神はみ国をわたしたちにくださるでしょう。

神はその力をふるって人間の力では成しえないことを成し遂げられるでしょう。そのとき完全な平和が支配する新しい天と新しい地が、わたしたちに与えられるでしょう。ですから、わたしたちはどんなことがあってもあきらめることなく、神への揺るぎない信仰と生き生きとした希望を胸に祈り続けなければならないのです。



第2回サビフェス(山口教会)



あつという間に暑い夏がやってきた。平和への希望をあらたに、私たちの一人一人の小さな祈りを捧げながら原爆投下80年の夏を過ごしていきたい。かぴ

ました。

おかげさまで、次回は11月3日(月・祝)に第3回を開催させていただきますことになりました。これまでに見えてきた課題とも丁寧に向き合いながら、信徒の皆さま、地域の方々、そして未来の教会を担う若者たちとともに、よりよい場をつくってまいります。

どうか広島教区の皆さまには、今後ともご理解と寛容のうちにこの働きを支えていただけましたら幸いです。そしてぜひ、会場へも遊びに来てください。

(青年活動企画室 益田)